

ちょっと【外（に）出る／出かける／外出する】ね

—外への移動を表す類義表現の使い分け—

帖佐幸樹・小口悠紀子

Usage of *soto ni Deru*, *Dekakeru*, and *Gaisyutusu*

Hideki CHOSA, Yukiko KOGUCHI

キーワード：類義表現，外に出る，出かける，外出する，使い分け

1. はじめに

（『JLPT N3 ミニストーリーで覚える
日本語能力試験ベスト単語合格 2100』）

近年，日本語教育の分野において，実質語研究の必要性が唱えられるようになってきている。白川（2018：77）では，語法研究に対して，その量が少ないことに加えて，文法研究者の関心がそれほど高くないことを危惧し「語法研究へのてこいれ」の必要性を述べている。また，金澤・山内（編）（2022）では，「はじめに：iv（山内博之）」において，1つの実質語から始める研究を「小さな日本語学」と定義し，そのメリットの一つとして，「日本語教育に役立つ（日常のコミュニケーションでは機能語より実質語の方が重要だが，これまで実質語を研究する研究者がほとんどいなかった）」ことを挙げている。本稿も上記のような問題意識に立つものである。

さて，本稿は「『出かける』と『外出する』はどう違うのか」という L2 日本語話者からの質問がきっかけである。確かに「出かける」や「外出（する）」という語は，次の（1）～（4）のように日本語の教科書や日本語能力試験対策用の書籍において目にする¹⁾。

- （1）用事がありますから，出かけなければなりません。
（『みんなの日本語』初級Ⅰ 第2版 17課）
- （2）出かけません ⇒ 出かけないほうがいいです。
（『できる日本語 初級 本冊』
12-2 1-1 練習2 ③）
- （3）外出の際，必ずフロントに鍵をお預けください。
（『みんなの日本語』中級Ⅱ 14課）
- （4）今日は花粉がたくさん飛んでいる。目がかゆくて，鼻もむずむずするので，外出はやめておこう。

上記の L2 日本語話者の質問に対して，本稿では「どんなときに『出かける』を使用し，また，どんなときに『外出する』を使用するのか」という問いに変換して考えてみたい。なお，調査を進める過程で，「外（に）出る」²⁾という表現が運用上重要な役割を果たしていることが示唆されたため，「外（に）出る」という表現も含めて考察を行う。よって，本稿の問い（RQ）は以下ようになる。

RQ：「『出かける』『外出する』『外（に）出る』の3つの語はそれぞれどんなときに使用されるのか」

本稿では，上記の問い（RQ）に対し，『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』（以下 J-TOCC と呼ぶ）を用い，「話題」の観点から考察を行う。本稿の構成は以下の通りである。まず 2 節において「出かける」「外出する」「外（に）出る」という3つの語に関する基本情報をまとめる。次に 3 節において J-TOCC を用い「出かける」「外出する」「外（に）出る」の分析結果を記述する。4 節では「出かける」「外出する」「外（に）出る」の使い分けについて考察し，導入案を提示する。5 節ではまとめと今後の課題を述べる。

2. 対象とする語の基本情報

この節では対象とする3つの語について，①「日本語教育語彙表」における扱い，②辞書における記述，③国立国語研究所（宮島達夫）（1972）の記述，④「筑波ウェブコーパス」におけるコロケーション情報の4つの観点からそれぞれの語の基本情報をまとめる。

2.1 「日本語教育語彙表」

まず、日本語教育において3つの語はどのように捉えられているのか、Web上で公開されている日本語学習辞書支援グループ（2015）『日本語教育語彙表 Ver 2.8.3』を利用し、特に「難易度」と「重要度」の点から見ることにする。なお「外出する」は検索したが該当しなかったため、「外出」で代用する。「外（に）出る」についても代わりに「出る」の情報を挙げておく。それぞれの「難易度」（6段階）と「重要度」（5段階）の情報は以下の通りである。

(5) 「出る」

難易度：初級後半

重要度：☆☆☆☆

旧日本語能力試験出題基準レベル：4級

(6) 「出かける」

難易度：初級後半

重要度：☆☆

旧日本語能力試験出題基準レベル：4級

(7) 「外出」

難易度：中級前半

重要度：☆

旧日本語能力試験出題基準レベル：2級

(5)～(7)を見ると、「出る」と「出かける」は難易度の位置づけが共通しているのに対して、重要度は「出る」の方が大きい。これは、「出る」が多義語であることがその一因と考えられる。Web上で公開されている国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』における「出る」（執筆：家根橋伸子、校閲：今井新悟）の項目では、「出る」の中心義「外への移動」（人や動物や乗り物が空間・領域の中・内から外へ移動する）の例として以下の例が紹介されている。

- (8) 飼い猫に外に出られたら困るので、終日、窓を閉め切っている。

（『基本動詞ハンドブック』項目「出る」）

ここでは「外（に）出る」が「出る」の基本的意味の用法の一つとして扱われている。そのため、L2日本語話者の目にも比較的早く触れることが予想される。

一方で「外出」は難易度としては中級前半に位置づけられ、重要度も5段階中1と高くない。しかし、「外（に）出る」と「出かける」が既出の状況で、「外出する」を新たに学ぶ状況を考えると、その使い分けに

についての情報は整理しておく必要があるようである。

2.2 辞書における記述

次に「出かける」「外出する」「外（に）出る」という語について、辞書における記述を確認する。なお、「外（に）出る」は先述した通り多義語である「出る」の意味の一部であると考え、関連箇所のみ取り上げる。

まず、日本大辞典刊行会（編）（2001）『日本国語大辞典（第2版）』の記述を確認する。なお、当該辞書を選んだ理由は現代日本語の語彙が網羅的に記述されていることに依る。

(9) 「出かける」

①出て行く。でむく。出発する。

②出て行こうとする。

③ある行動を起こすことをしゃれていう語
(同4巻：192)

(10) 「外出（する）」

①物が外部へ出て行くこと。

②家から外へ出ること。よそへ出かけること。
(同14巻：252)

(11) 「出る」

①ある限られた所から、その外へ進み動いていく。また、外のある場所に位置を変える。いず。

④（出発点に重点が置かれ、動作性が強い場合）外へ行く。出かける。出発する。
(同4巻：294)

記述内容を確認すると、下線部のように「外出する」「出る」の意味・用法を説明する際に「出かける」が用いられていることがわかる。このことから、本稿が対象とする3つの語は意味的に関連性を持つことが窺える。しかしながら、いずれも抽象度の高い説明でありそれぞれの語の運用に資するような記述に乏しい。

では、運用の観点について説明のある辞書の記述はどうであろうか。まず、田・泉原・金（編）（1998）『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』の記述を確認する。なお、当該辞書において「出る」は項目として立てられていなかった。

当該辞書において「出かける」（同：72）は、類語として「行く」と共に紹介されている。また、その他の類語表現として、「赴く」「出向く」「発つ」「外出」「出発」が並んでおり、ここでも「出かける」と「外出」の意味的関連性が見いだせる。「出かける」

と「行く」の違いとしては、「行く」は目的を問題としないのに対し、「出かける」は「何か目的があって家を出ること」が特徴であると解説されている。

一方で「外出」は「出かける」の項目において「出かける」の漢語的表現と解説され、「外出中・外出している」で「不在・留守」を意味するとされている。

次に、小学館辞書編集部（編）（2003）『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』の記述を確認する。この辞書では、「出かける」と「外出（する）」が「他出」と共に類語の項目として立てられている（同：112）。

「出かける」と「外出（する）」の共通点は「用事で外へ出て行くこと」とあり、下線部のように「外（に）出る」との意味的関連性が見られる。なお、使い分けのポイントとして、「出かける」には、なにか目的を持って行く意と、単に家を出て外へ行く意と両方あるとされている。「外（に）出る」については、当該辞書に「出る」（同：112）の項目は立てられているものの、具体的な事例としては取り上げられていなかった。

このように、両辞書共に3つの語の運用面について、示唆的な記述が見られるが、上記の記述が運用実態に沿ったものかについては検討する必要がある。

2.3 国立国語研究所（宮島達夫）（1972）

ここでは、国立国語研究所（宮島達夫）（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』における記述を見る。

なお、「外出する」の記述は確認されなかった。

まず、「出かける」（同：203-206）については、動詞の表す語彙的アスペクトの観点から、「開始の段階（出発）」（同：203）を表す動詞として取り上げられている。その中で「出かける」は「出発する」と「出る」と対照する形で記述されている（同：205-206）。具体的には、もっとも〈純粋に〉出発の段階を表すのは「出発する」とであるとされるのに対し、「出かける」と「出る」については、「出かける」は文脈に応じて、「出る」はその多義性に応じて、重点の置き場所を異にする場合があるとされている。その際、「出かける」については、次の（12）～（14）を例に挙げ、出発の段階に重点を置きつつも目的地にすでについている段階も、「出かける」に含まれることがあるとしている。

（12） 扇屋を指して出掛けた頃は、月も落ちかかって居た。（島崎藤村『破戒』同：205）

（13） 是から東京へでも出掛けた時に、自分の聲は政治家だと言って、吹聴する積りなんだろうが、（島崎藤村『破戒』同：205）

（14） 彼は今工場へ出かけています。（同：205）

また、上記の言語事実を踏まえ、「出かける」において重要なことは、〈最初の場所における不在〉という特徴であると述べられている（同：206）。

次に、「外（に）出る」については、「出る」の項目（同：563-607）において、「出る」が基本的意味を表す場合の〈到達点〉を表す例として紹介されている。具体的には、「出る」のもっとも基本的な意味は、「物体が他の物体から、または一定範囲の空間から、外に移動することである」（同：563）とされている。その中で〈到達点〉を表すものとして（15）を挙げている。

（15） 三好は先に立って、硝子戸のそとに出た。（里見弴『多情仏心』同：564）

また、「～に出る」の文型については、出発点ではなく、到達点に重点がある場合であると述べられており、その構文的な特徴についても言及されている。

以上の記述を踏まえると、3つの語の使い分けを検討する際、実際の運用実態として、3つの語について①事態の〈出発〉の段階を表しているか否か、②〈出発点〉と〈到達点〉のどちらに重きを置いているのかという2つの点に関わってくることが示唆される。

2.4 筑波ウェブコーパス

最後に、3つの語のコロケーション情報について、「筑波ウェブコーパス」（Tsukuba Web Corpus: TWC）を使って調べた結果について報告する。「筑波ウェブコーパス」を調査対象とした理由は、3節において使用する J-TOCC が大学生2者間の会話を収録した話し言葉コーパスであることとの親和性を考慮したためであることと、ウェブコーパスであれば比較的話し言葉に近い表現が出現しやすいと判断したためである。なお、日常会話を扱った話し言葉コーパスについては、「日本語日常会話コーパス」（CEJC）があるが、データ量の確保、また共起関係に着目する目的から今回は「筑波ウェブコーパス」を採用した。

次に検索方法について説明する。検索にあたっては「筑波ウェブコーパス」を検索するツールである「NINJAL-LWP for TWC」を使用した。検索にあたっては見出し語検索ウィンドウに、「出かける」（頻度：40,637）「外出する」（頻度：5071）「出る」（頻度：715,658）と入力した。以下、各語の詳細を述べる。

まず、「出かける」については、「名詞＋助詞」の

パターンにおいて、「～に出かける」の頻度が 22,074 と最も多い。次に「～に出かける」のコロケーションに関して、特徴的なコロケーションを抽出する際の指標である MI (Mutual Information) に着目する (頻度 30 以上)³⁾。結果、最も MI の高かった表現は「買い出しに出かける」(11.42, 頻度: 79)であった。次いで、「ピクニックに出かける」(10.97, 頻度: 48), 「散歩に出かける」(10.89, 頻度: 627), と続き, 「見物に出かける」(10.87, 頻度: 124), 「初詣に出かける」(10.75, 頻度: 60), 「ツーリングに出かける」(10.33, 頻度: 101), 「探検に出かける」(10.02, 頻度: 86) までが, MI が 10 以上を超えるパターンである。上記の表現を観察すると「出かける」については, 具体的な場所を表す表現よりも, 目的を表す表現と共起しやすいことが窺える。この点については田・泉原・金 (編) (1998: 72) の「何か目的があって家を出ること」との解説と一致する。

次に, 「外出する」については「名詞+助詞」のパターンにおいて, 「～に外出する」が頻度 692 と多いが, 次いで「～で外出する」(頻度: 612), 「～が外出する」(頻度: 433), 「～は外出する」(頻度: 380) と続くため, 「～に外出する」の頻度を取り立てて高いわけではない。「～に外出する」の MI (頻度 30 以上) に着目すると, 「一緒に外出する」が (9.18, 頻度: 80) と高いことを除けば, 特徴的なコロケーションは見いだせなかった。また「～で外出する」については, 「一人で外出する」の MI が (10.08, 頻度: 107), 「車で外出する」が (8.04, 頻度: 42) と特徴的である。「一緒に」や「一人で」のように「誰と」という情報を表す表現と共起する傾向を持つと言える。

最後に「外に出る」については「出る」から得られた情報を述べる。「出る」の「名詞+助詞」のパターンでは, 「～が出る」が (頻度: 357,001) と高いのに次いで, 「～に出る」が (頻度: 202,830) と続く。「～に出る」の中で「外に出る」は (頻度: 13,225) と頻度としては最も高い。また, MI も 8.44 を記録しており特徴的なコロケーションであると考えられる。なお, 後の議論に関連するが, 「外に出る」の用例の中には「海外」や「郊外」, 「県外」などの表現は含まれていないものの, 意味的には「海外」や「郊外」, 「県外」を表す「外」も含まれていることを断っておく。

2.5 ここまでのまとめ

以上, 3 つの語について 4 つの観点から基本情報を確認した。3 つの語の意味的類似性については, 2.2 節

と 2.3 節の記述から意味内容としても, また, 語彙的なアスペクトの意味からも類似性の裏付けが取れたと言える。一方で, 相違点については, 辞書的な記述においては, 運用に繋がるような記述に乏しいものの, 2.4 節で確認したコロケーション情報を見ると, それぞれに特有の特徴があることが示唆される。

3. 分析

ここでは, J-TOCC を用いて「出かける」「外出する」「外 (に) 出る」という語について分析を行う。まず, 「話題」の観点から 3 つの語の特徴比較を行い, その後, それぞれの語について詳細を記述する。

3.1 「話題」の観点から見る 3 つの語の特徴

近年, 日本語教育においては「話題」の重要性が説かれるようになってきている。本稿で使用する『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC』は, 話題が語彙・文法・談話ストラテジーなどに与える影響を検討するために構築されたコーパスである (中俣他 2021)。詳細については中俣他 (2021) を参照されたい。

本稿では「話題」と「語彙」が相関することを踏まえ, J-TOCC において「出かける」「外出する」「外 (に) 出る」という語も「話題」という観点から共通点と相違点を見いだせるのではないかと考え, 調査・分析を実施した。検索にはエディターソフト「秀丸 ver.9.12 ((有) サイトー企画) 」を用い以下の検索条件で grep 検索を行った (正規表現含む)。

- ・「出かける」の検索条件: 出[掛か]け
- ・「外出する」の検索条件: 外出[さしすせ]
- ・「外 (に) 出る」の検索条件: 外に?出[へさしすせ]

検索の結果, 「外 (に) 出る」102 件, 「出かける」45 件, 「外出する」10 件のデータを抽出した。そこから, 目視で用例を確認し, 「案外出雲以外」, 「海外出たい」, 「(ゴミを) 外 (に) 出したり」のような分析対象とならないデータを除き, 最終的に「外 (に) 出る」86 件, 「出かける」40 件, 「外出する」8 件のデータを抽出した。なお, 品詞の違いが振舞いの違いに影響する可能性を考慮し, 今回は「お出かけ」や「外出」のような名詞は分析対象に含めていない。

次の表 1 は, J-TOCC における, 各語の話題別用例出現数をまとめたものである。全体の用例出現数は, 「外(に)出る」「出かける」「外出する」の順に多い。

表 1 対象語彙の話題別出現数

話題／対象語	外（に）出る	出かける	外出する
食べること	4 (4.65%)	6 (15%)	0 (0%)
ファッション	4 (4.65%)	4 (10%)	3 (37.5%)
旅行	5 (5.81%)	4 (10%)	0 (0%)
スポーツ	1 (1.16%)	0 (0%)	0 (0%)
マンガ・ゲーム	4 (4.65%)	0 (0%)	0 (0%)
家事	8 (9.30%)	2 (5%)	0 (0%)
学校	3 (3.49%)	3 (7.5%)	3 (37.5%)
スマートフォン	1 (1.16%)	2 (5%)	0 (0%)
アルバイト	1 (1.16%)	0 (0%)	0 (0%)
動物	6 (6.98%)	1 (2.5%)	0 (0%)
天気	39 (44.35%)	10 (25%)	2 (25%)
夢・将来設計	1 (1.16%)	1 (2.5%)	0 (0%)
マナー	2 (2.33%)	3 (7.5%)	0 (0%)
住環境	5 (5.81%)	4 (10%)	0 (0%)
日本の未来	2 (2.33%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	86 (100%)	40 (100%)	8 (100%)

まず、出現する「話題」の広さに目を向けると、「外（に）出る」はすべての話題において出現しており、その汎用性の高さが示唆される。その一方で「外出する」については、「ファッション」「学校」「天気」の3つの話題にしか出現していない。「出かける」については、「スポーツ」「マンガ・ゲーム」「アルバイト」「日本の未来」を除いた11の話題に出現しており、比較的広い話題で使われることが窺える。

次に、「話題」の観点から見た3つの語の共通点・相違点については、「外（に）出る」と「出かける」は共に「天気」の話題において最も多く出現している点が共通する。だが、詳しく見てみると、「外（に）出る」は「天気」の話題が約44%を占めているのに対して、他の話題については10%を割っていることから、「天気」の話題に突出しているのが特徴であると言える。一方で、「出かける」については、「天気」の話題で25%を占めているものの、「食べること」は15%、「ファッション」「旅行」「住環境」がそれぞれ10%を占めていることから、「天気」の話題に突出しているわけではないという違いを見出すことができる。「外出する」については、8件と出現数も他の語に比べて少なく、また話題による傾向も見いだせなかった。

以下、これ以降の節では2節での情報も踏まえながら、3つの語の特徴付けを行う。

3.2 「外（に）出る」の特徴

まず、「外（に）出る」からその特徴について述べる。特徴を一言でまとめると、「ある空間の内部からの移動」という抽象度の高い意味が、どの話題においても喚起されるということである。だが、実際には、話題や文脈の違いによって、「ある空間」の具体的な現れ方が異なっている。以下その点について詳述する。なお、表記としては86例の内、26例が「外に出る」で出現し、60例が「外出る」であった。最初に、用例数が突出している「天気」の話題における例を挙げる。

- (16) めんどくさい。外出たくない。俺は買い物以外で外出ることないぞ。

（「天気」 西日本 男男 W-119-10）

- (17) 逆に、なんか、晴れてると外出たくなるもん。なんか。何だろう。

（「天気」 東日本 男男 E-104-11）

(16) と (17) では、家からの移動が問題になっていると言える。だが、必ずしも家のような居住地の事例に限られるわけではない。例えば、「住環境」の話題における(18)の「外」は「県外」，「旅行」の話題における(19)の「外」は「海外」のことである。

- (18) まあ、神戸のほうがあえし、【地名】は大学ないから将来性のこと考えたら、やっぱ外に出たほうがいいんかなって、僕は思いますね。

（「住環境」 西日本 男男 W-115-14）

- (19) 逆に外出て日本の、ああ、こういうところいいなって気付くし、そういうのがいいなって思う。

（「旅行」 西日本 女女 W-320-03）

また、「外（に）出る」が常に何かしらの目的を喚起すると考えるのは、次のような動物や非情物が主格に立つ用例があることを踏まえると無理があるだろう。

- (20) それを、ね、メダカがまあ、跳ねたりして、水の外に出ちゃって、翌日見たら、もう3匹ぐらい飛び出てて、干からびてんの。

（「動物」 東日本 男男 E-101-10）

- (21) おるときで、5時ぐらいになってまだ洗濯物が 外に出とったら、入れたりはする。

（「家事」 西日本 女女 W-318-06）

- (22) 何か、バッグとか、多分荷物のところが、（荷物）全部外出ちゃって、

以上を踏まえ、「外(に)出る」の特徴を本稿では「ある空間の内部からの移動」とまとめる。

3.3 「出かける」の特徴

次に「出かける」の特徴について述べる。田・泉原・金(編)(1998:72)では「何か目的があって家を出ること」と述べられているのに対して、小学館辞書編集部(編)(2003:112)では、「出かける」には、なにか目的を持って行く意と、単に家を出て外へ行く意と両方あるとされている。この先行研究の見解について、本稿では「出かける」の特徴を「目的を持った移動」とまとめ、「出かける」という語は多義語ではなく、一義的になんらかの目的を伴った移動を喚起する語だと主張する。以下、その根拠を列挙する。

まず、「出かける」がなんらかの目的を伴った移動を喚起することの根拠として次の(23)を挙げる。

- (23) [親が子どもに] 不審者が近所をうろついて
いるらしいから、家から{外に出たら／？出か
けたら}駄目だよ。(作例)

(23)の発話は、結果的には聞き手に家に留まることを指示している。この場合「外に出る」は使用できても「出かける」は使用できない。これは、「出かける」という語が喚起する「何等かの目的」という意味が、家に留まることへの指示する発話において、焦点をずらす情報となってしまうためであると考えられる。

次に、先の主張は2.4節で見たように「筑波ウェブコーパス」における「出かける」のコロケーションについて「買い出しに」「ピクニックに」「散歩に」「見物に」「初詣に」「ツーリングに」「探検に」のような目的を表す語と共起しやすい点と親和性を持つ。また、国立国語研究所(宮島達夫)(1972)における、「出かける」は文脈によって〈到達点〉と〈出発点〉のどちらを表すかが変化するという記述についても、上記のような表現や、次の(24)のように目的を果たす場所が言語化された場合は〈到達点〉を捉え、そうでない場合は〈出発点〉を捉えれば説明がつく。

- (24) いや、なんかコンビニに出掛けんのも怠いからさあ、何かあるものでなんとか生き延びようと思って。

最後に、3.1節において「出かける」の用例における「話題」毎の分布について、「天気」の話題が25%を占めつつも、「食べること」は15%、「ファッション」「旅行」「住環境」がそれぞれ10%を占めていたことを思い出されたい。この傾向は、上記の説明を踏まえればうまく説明できる。具体的には、用例出現割合の高かった「食べること」と「旅行」は、話題の内容が「出かける」ことの目的を表している。また、「ファッション」に関しても服を着る、化粧をするということが何かしらの目的と結びつきやすいと考えられる。つまり、「話題」の内容が何かしらの目的と結びつきやすいものであり、それが「出かける」という語の使用を促したと考えられるのである。

以上から、本稿では「出かける」の特徴を「目的を持った移動」とまとめる。

3.4 「外出する」の特徴

最後に「外出する」の特徴について述べる。特徴について一言で言うならば、「いるべき場所からの移動」となる。以下、例を挙げながら詳述する。

J-TOCCから得られた「外出する」のデータは8例と多くないが、それらの用例には共通した特徴がある。

- (25) アイス食べて帰ってきたんだけど、何か水曜日の外出できる場所は範囲が決まってるんですみたいな。

(「学校」東日本 女女 E-301-07)

- (26) 何も、すごくなかったわ、台風。あんな、外出したらな、危ない、危ない、とか言うて。

(「天気」西日本 男男 W-115-11)

- (27) ないかも。外出しないからいいかな。春外出したくねえな、花粉だから。

(「ファッション」東日本 男女 E-206-02)

まず、(25)は話者が高校生時代、寮に住んでいたという文脈である。寮にはルールがあり基本的には寮にすることが望ましいという文脈において「外出する」が使用されている。また、(26)は台風が来た時の会話であるが、ここでは、台風の際に外に出るのは危ないため、家の中にいるのが望ましいという文脈において「外出する」が使用されている。(25)と(26)に共通しているのは、寮と家が共にいるべき場所として喚起されているということである。また、(27)についても、話者は花粉症であり、その点を考慮すれば家にいるのが望ましいという文脈で「外出する」が使用

されている。以上から、「外出する」の特徴は「**いるべき場所からの移動**」とまとめられる。

4. 考察

改めて、3節で述べた3つの語の特徴を挙げる。

- (28) 外(に)出る：ある空間の内部からの移動
- (29) 出かける：目的を持った移動
- (30) 外出する：いるべき場所からの移動

「外(に)出る」「出かける」「外出する」は、「外への移動」を意味する点で共通する。しかし、重要なのは「出かける」と「外出する」が選ばれた際には、それぞれ(29)と(30)に示した、(28)に比べて具体性の高い特徴も同時に喚起されるという点である。各々の特徴が喚起されることは次の(31)において、「この線」という一時的かつ抽象度の高い空間が設定された場合に「外に出る」は使用できても「出かける」と「外出する」が使用できない点からも確認できる。

- (31) この線から {外に出ない／？出かけない／？外出しない} てください。(作例)

また、実際に言語化するにあたっては、話者の焦点が(28)～(30)のどこにあるかによってそれに見合った語、例えば「目的を持った移動」に焦点があれば「出かける」が、「いるべき場所からの移動」に焦点があれば「外出する」が選択されるのだと考えられる。

さて、日本語教育の現場では(28)～(30)のような3つの語の特徴の異なりをメタ言語的に示すことも重要であると思われるが、それ以上に適切な例文で違いを示していくことが重要であると考えられる。

例えば、『日本語教育語彙表』において、共に初級後半に位置づけられている「外(に)出る」と「出かける」の違いであれば、3.1節の分析結果において、「外(に)出る」は「天気」の話題に突出していたのに対して、「出かける」は「天気」の話題の他、「食べること」や「ファッション」「旅行」など、何かしらの目的を伴った話題で使用される傾向が見られた。この傾向を踏まえると、一案としては、「外(に)出る」は「天気」の話題において導入する一方で、「出かける」は「食べること」や「旅行」などの話題で導入することで話題の差異化を図ることが考えられる。

では、中級前半に位置づけられていた「外出する」

はどのように扱うべきだろうか。ここで、2.4節において「外出する」が「一緒に」や「一人で」のように「誰と」という情報を表す表現と共起しやすかったことを思いだされたい⁴⁾。実はこの傾向も「外出する」の特徴と関連する。具体例として(32)～(35)を挙げる。

- (32) 1ヶ月健診すぎれば赤ちゃんと一緒に外出してもいいですか？(筑波ウェブコーパス)
- (33) おでかけタイは、本人と介護者が一緒に外出するのを支援するもの。(同上)
- (34) 通院と婚約者宅へ行く時を除き、ほとんど1人では外出しない。(同上)
- (35) また、ひとりで外出すると道に迷って帰ってこれなくなったりします。(同上)

まず「一緒に外出する」は、(32)や(33)のように、赤ちゃんや介護を受ける人物のように、本来家にいることが望ましい人物と移動する場合に使用されている。また、「一人で外出する」も、(34)と(35)において本来家にいることが望ましい文脈で使用されている。この点を踏まえると、「子育て」や「介護」のような話題において「外出する」を導入する案も考えられる。それに加えて、「外出する」を導入した段階で、改めて「外(に)出る」や「出かける」を取り上げて、その違いについて触れることも効果的であると考えられる。以上の考察結果をまとめると以下ようになる。

- (36) 外(に)出る：ある空間の内部からの移動
話題の事例：天気
- (37) 出かける：目的を持った移動
話題の事例：旅行、食べること
- (38) 外出する：いるべき場所からの移動
話題の事例：子育て、介護

5. まとめと今後の課題

本稿では「『出かける』『外出する』『外(に)出る』の3つの語はそれぞれどんなときに使用されるのか」という問い(RQ)に対し、3つの語の基本情報とJ-TOCCの分析結果を踏まえ、「話題」の観点から考察を行い、使い分けに関する提案を行った。

今後の展望として2点挙げる。一つは、今回は「外(に)出る」「出かける」「外出する」の3つの語を取り上げたが、類義表現のネットワークには、「出発する」や「出て行く」のような語も含まれる。今回の

記述・考察を足掛かりにして、「外への移動」を表す動詞群の記述を広げていくことが考えられる。

二つ目は、3つの語の特徴の実証的検証である。これについては、(36)～(38)の特徴が反映された文脈を設定し、日本語母語話者を対象とした補完型の想起テストを実施することが考えられる。

注

- 1) 小泉他(編)(1989)『日本語基本動詞用法辞典』では、「出る」「出かける」「外出する」のすべてが基本動詞として扱われている。
- 2) 「外(に)出る」は語の範囲に収まらないが、本稿では便宜上、語として扱う。また「外(へ)出る」という表現も存在するが、『NINJAL-LWP for TWC』において、①「出る」を検索した際、①「～へ出る」の頻度が9,966に対し、「～に出る」の頻度が202,830と約20倍であること、②「出かける」と「外出する」の2つの動詞において「～に出かける」「～に外出する」の頻度が最も高い点を踏まえ、「外(に)出る」を考察対象とした。
- 3) MIの注意点として、今井(2019:166)は頻度の影響を受けやすいことを指摘している。MIの他、LD(Log Dice)も活用できるが、こちらは特徴のある組み合わせを強調するという点ではMIに劣るものの、頻度の影響を受けにくいより安定した指標であるとの指摘がある。
- 4) 「NINJAL-LWP for TWC」で「一緒に外出する」と「一人で出かける」のLD(Log Dice)の数値を確認したところ、「一緒に外出する」のLDは3.53、「一人で出かける」のLDは4.24であった。

参考文献

- [1] 今井新悟(2019)「コーパスの日本語テストへの応用」プラシヤント・パルデシ・靱山洋介・砂川有里子・今井新悟・今村泰也(編)『多義語動詞分析の新展開と日本語教育への応用』pp.158-173, 開拓社。
- [2] 金澤裕之・山内博之(編)(2022)『一語から始める小さな日本語学』ひつじ書房。
- [3] 小泉保・舟城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹(編)(1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店。
- [4] 国立国語研究所(宮島達夫)(1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版。
- [5] 小学館辞書編集部(編)(2003)『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』小学館。

- [6] 白川博之(2018)「日本語研究から日本語教育研究への越境」『日本語の研究』14巻2号, pp.68-83, 日本語学会。
- [7] 田忠魁・泉原省二・金相順(編)(1998)『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』研究社。
- [8] 中俣尚己・太田陽子・加藤恵梨・澤田浩子・清水由貴子・森篤嗣(2021)「『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC』」『計量国語学』33巻1号, pp.11-21, 計量国語学会。
- [9] 日本大辞典刊行会(編)(2001)『日本国語大辞典(第2版)第4巻』小学館。
- [10] 日本大辞典刊行会(編)(2001)『日本国語大辞典(第2版)第14巻』小学館。

用例引用書籍・使用データベース情報

- [11] スリーエーネットワーク(編)(2012)『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』スリーエーネットワーク。
- [12] スリーエーネットワーク(編)(2012)『みんなの日本語 中級II 本冊』スリーエーネットワーク。
- [13] できる日本語教材開発プロジェクト(2011)『できる日本語 初級 本冊』アルク。
- [14] 中俣尚己・加藤恵梨・小口悠紀子・小西円・建石始(2021)『JLPT N3 ミニストーリーで覚える日本語能力試験ベスト単語合格 2100』ジャパンタイムズ出版。
- [15] 国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』(<https://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)
最終閲覧日 2022年10月12日。
- [16] 筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究『NINJAL-LWP for TWC』(<https://tsukubawebcorpus.jp>)
最終閲覧日 2022年10月12日。
- [17] 日本語学習辞書支援グループ(2015)『日本語教育語彙表 Ver 2.8.3』(<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/>)
最終閲覧日 2022年10月12日。

謝辞

本稿の内容について、日本語教育誤用例研究会(2022年10月30日開催)で多くの有益なコメントを頂戴しました。この場を借りて御礼申し上げます。なお、本研究はJSPS 科研費 22H00668の支援を受けています。